

令和5年2月20日

浦添市議会議長 殿

議会運営委員会
委員長 仲程 淳也

議会運営委員会視察報告書

令和5年1月17日から令和5年1月18日まで、委員会視察を実施いたしましたので、下記のとおり報告します。

記

- | | |
|---------|--|
| 1 視察期間 | 令和5年1月17日（火）～令和5年1月18日（水） |
| 2 視察場所 | 東京都大田区議会 神奈川県川崎市議会 |
| 3 視察項目 | 議会運営及び議会の活性化について |
| 4 視察参加者 | 仲程淳也 又吉健太郎 大城翼 儀間光秀
仲間 烈 護得久朝文 上原聖也 金城大輔
古波蔵保尚 田畑翔吾 當間清春 比嘉克政（※議長） |
| 5 調査内容 | 別紙のとおり |

視察日	令和5年1月17日（火）
視察先	東京都大田区議会 人口 729,100人（令和4年11月現在） 市面積 61.86㎢ 議員定数 50人
視察市及び区議会の概要	
<p>大田区は、東京都の東南部にあり、東は東京湾に面し、北は品川・目黒区に、東西は世田谷区に、さらに西と南は多摩川を挟んで神奈川県川崎市とそれぞれ隣接している。区内は西北部の丘陵地帯と東南部の低地に2分され、丘陵地帯はいわゆる武蔵野台地の東南端にあたる。海と川に臨み、武蔵野台地の先端に位置していることから、昔から人が住みやすく、交通の要路でもあったため、区内には大森貝塚、多摩川台古墳群、池上水門寺五重塔など多くの史跡が点在しており、水止舞や禰宜（ねぎ）の舞などの伝統芸能も数多く残されている。大正期以降、中小企業が進出し低地部は住宅や工場が密集する商業・工業地域を形成し、京浜工業地帯の一部となっている。また台地部は関東大震災後住宅化が進み、田園調布、雪谷、久が原などの住宅地、臨海部は埋立地からなり、空港をはじめ、コンテナふ頭、市場など物流施設のほか、工業団地、野鳥公園など都市機能施設が整備されている。大田区議会は区全体を1選挙区とする大選挙区制であり、議員定数は50人。会派は8つの会派（自由民主党大田区民連合、大田区議会公明党、日本共産党大田区議団、令和大田区議団、立憲民主党大田区議団、フェアな民主主義、大田無所属の会、東京政策フォーラム）より構成されており、委員会は議会運営委員会、5つの常任委員会、4つの特別委員会が設置されている。早くより議会のICT化に取り組み、貸与タブレットによる議会・委員会の運営やそのペーパーレス化等を実現している。</p>	
調査項目	
議会におけるICT化の取組について	
調査理由	
<p>本市議会では令和4年度より議会において貸与タブレットを導入する等、議会におけるICT化に取り組んでいるところである。議会におけるICT化について先進地である大田区議会の取り組みを視察することで、ICT機器等をどのように活用し、ペーパーレス化や議事運営における利便性向上などの実現を図っているのか等を調査・研究し本市での議会運営・委員会運営の参考とする。</p>	
調査内容	
<ol style="list-style-type: none"> (1) ICT化を進めることになった経緯・目的とこれまでの取組について (2) ICT機器の購入や通信費、アプリのインストール等における費用負担について（どのように費用負担しているのか、ICT機器に自由にアプリをインストールできるのか等） (3) ICT機器（タブレット等）を活用した議会運営及び委員会運営について (4) ICT化を進めていく上での留意点や課題等について 	
考察	
<ul style="list-style-type: none"> ・平成27年にタブレット導入時は紙の配布を維持して欲しい、ペーパーレスは不可能との声もあったようだが、令和元年からペーパーレス議会を本格実施している。MDMという端末のマネジメントシステムを導入しているが、過去にそれを活用した実績を質問すると、端末の紛失で遠隔ロックをしたとの事、タブレットに関する大きなセキュリティの事故はこれまで無いとの事だか、セキュリティの重要性は認識している。浦添市においてもタブレットの活用の仕方とともにセキュリティに関して意識を高めていく必要があると感じた。 ・ICT化の取組みの中で初めて聞いた取組みとして、政務活動費清算システム（楽々清算）の導入。これまでは各議員から提出されたレシート等を職員総出で確認しなければならず、年間残業時間が30～40時間発生していたが、同システム導入により作業を簡素化することで残業がなくなったとの説明を受けた。これまで、タブレット等の活用はペーパーレス化や用紙代の無駄をなくすことに重点が置かれているように感じたが、職員の働き方改革に多少なりとも繋げられるのではないか。働きやすい職場環境を作るうえでも今後の課題にしたい。 	





視察日	令和5年1月18日（水）
視察先	川崎市議会 人口 1,538,721人（令和4年4月現在） 市面積 144.35km ² 議員定数 60人
視察市及び市議会の概要	
<p>川崎市は、神奈川県北東部に位置し、北は多摩川を挟んで東京に、南は横浜市にそれぞれ隣接し、西は多摩丘陵地帯、東は東京湾となっている。地理的特性から、臨海部、内陸部、丘陵部に区分され南東部の臨海部は、重化学工業、鉄鋼業、研究開発機関の集積や物流の拠点として、内陸部は、商業機能や事務所、住宅等いくつかの集客拠点を中心に集積するとともに、JR南武線沿いには世界的なIT企業や企業の研究開発施設が数多く立地している。一方、北西部の丘陵部は、東京のベッドタウンとして良好な住宅地である一方で、多摩丘陵等には首都圏における貴重な自然が残されている。川崎市議会は各行政区を選挙区とする中選挙区制を取っており、議員定数は60人。会派は4つの会派（自由民主党川崎市議会議員団、日本共産党川崎市議会議員団、公明党川崎市議会議員団、みらい川崎市議会議員団）より構成されており、加えて会派に属さない無所属議員もいる。委員会は、議会運営委員会、5つの常任委員会、3つの特別委員会（予算、決算の特別委員会含む）が設置されている。川崎市議会の特色ある取り組みとして、貸与タブレットを活用した議会運営・オンライン委員会、大規模災害発生時の対応、高校生議会、全ての委員会のライブ配信及び録画映像配信、FacebookやTwitterを活用した情報発信、テレビ放映等、様々な取り組みが実施されている。</p>	
調査項目	
議会運営及び議会の活性化について	
調査理由	
<p>川崎市議会における基本的な議会運営等の流れ（会期日程や議事日程等）や議会運営委員会、常任委員会、特別委員会等の仕組みや委員会審査等の状況を把握するとともに、その中でどのように議会の活性化（貸与タブレットを活用した議会運営・オンライン委員会、大規模災害発生時の対応、高校生議会、全ての委員会のライブ配信及び録画映像配信、FacebookやTwitterを活用した情報発信、テレビ放映等）を図り、市民の福祉向上や議会活動の情報発信等へつなげているか視察を行った。</p>	
調査内容	
<p>(1) 議会運営について（会期及び議事日程、本会議での質問・質疑等） (2) 議会運営委員会、常任委員会、特別委員会の運営について (3) 議会の活性化の取組について（議会改革、大規模災害発生時の対応、高校生議会、全ての委員会のライブ配信及び録画映像配信、FacebookやTwitterを活用した情報発信、テレビ放映等）</p> <p>※ (1)・(2)については、貸与タブレットを活用した議会運営等の取り組みについても調査。</p>	
考察	
<ul style="list-style-type: none"> ・オンライン委員会を実施している。試行実施中に議員がコロナに感染したため実際運用したとの事。採決もオンラインで行える。本会議での運用も議論があるか質問したところ、総務省からは委員会のオンライン出席は認めるが本会議についての言及は無いため検討していない。現在は、感染症や災害時のみを想定している。浦添市でもタブレットを導入しているのでオンライン委員会を考えてもいいのではないかと感じた。 ・災害等に関する川崎市議会における危機事象対応会議等を参考とし、本市議会においても災害等に対応するための危機対応会議体の設置について取り組みを進めていく必要がある。 ・川崎市議会には委員会が5つ設けられているが、一番驚いたのは委員の発言持ち時間の制限が全くない。フリートークとしている点。請願や陳情などを議論するうえで、各委員が発言したいことが制限なく行える環境は市民にとっても望ましい形ではないかと感じた。更には、本会議や各委員会含めインターネット中継がなされている点。密室での議論ではなく、全てをオープンにすることにより、各委員がどのような発言をし、どのような結論に至ったのかを全て公開している点は浦添市議会も大いに参考にしなければならない重要な部分だと思う。 	



